

◆令和3年度研究賞受賞者◆

【荻村孝特別研究賞】

南谷 泰仁(東京大学医科学研究所 造血病態制御学分野 教授)

自然骨髄性白血病における新規治療標的としての細胞表面分子イムノグロブリンスーパーファミリーメンバー8

【清水賞】

加藤 元博(東京大学医学部附属病院 小児科 教授)

非典型的急性前骨髄球性白血病の分子基盤の解明による新規治療探索

【クレディセゾン賞】

指田 吾郎 (熊本大学 国際先端医学研究機構 特別招聘教授)

数的染色体異常による骨髄異形成症候群の発症機序の解析

【井手賞】

古屋 淳史(国立研究開発法人 国立がん研究センター研究所 分子腫瘍学分野 主任研究員)

マルチオミクスシングルセル解析技術を駆使してB細胞リンパ腫の病態形成において PD-LI高発現が果たしている機能的役割を網羅的に解明する

【臨床医学特別賞】(順不同)

木原 慶彦(順天堂大学 骨髄増殖性腫瘍治療薬開発講座 博士研究員)

抗変異型calreticulin抗体による骨髄増殖性腫瘍治療薬の開発

大嶋 宏一(埼玉県立小児医療センター 血液・腫瘍科 医長)

極めて稀な疾患と考えられている小児骨髄線維症の患者検体を解析することにより、病態を明らかにするとともに、救命につながりうる補助的診断方法の開発を目的とする

【一般研究賞】(順不同)

吉見 昭秀(国立がん研究センター研究所 がんRNA研究ユニット 独立ユニット長)

核酸医薬を用いてスプライシング遺伝子に変異を有する白血病に対して新規治療法を開発する

木下 真理子(宮崎大学医学部附属病院 小児科 助教)

難治性小児急性骨髄性白血病における治療抵抗性獲得メカニズムの解明

遠西 大輔 (岡山大学病院 ゲノム医療総合推進センター 研究教授)

難治性悪性リンパ腫における腫瘍細胞内外シグナルを同時に制御する遺伝子変異を標的とした新たな免疫併用療法の開発研究

國本 博義 (横浜市立大学医学部 血液 免疫 感染症内科 助教)

高リスク染色体異常を有する患者由来白血病モデルを応用した抗がん剤耐性機構の解明

亀田 和明(自治医科大学附属 さいたま医療センター血液科 大学院生)

異種移植モデルと分子生物学・バイオインフォマティクスの技術を駆使した難治性血液疾患の腫瘍微小環境解明

若松 学(名古屋大学大学院 医学系研究科 小児科学 大学院生)

若年性骨髄単球性白血病に関わるヒストン修飾を介したエピゲノム制御機構の解明

豊田 康祐 (熊本大学病院 血液・膠原病・感染症内科 大学院生)

ヒトT細胞白血病ウイルス1型(HTLV-1)が惹起する細胞内代謝変調による成人T細胞白血病(ATL)発がん機構と新規治療標的の探索

中川 俊輔 (鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 小児科学分野 医員)

癌抑制因子p53を活性化する抗腫瘍機構である核小体ストレス応答を利用して、小児骨髄性白血病の予後や薬剤耐性を予測し、新規治療戦略を構築する

【毎日賞】

日本小児がん研究グループ 血液腫瘍分科会(JPLSG) 加藤 格(京都大学医学部附属病院小児科 Scientific Committee副 WG 長 助教)

急性白血病の lineage switch 前後の検体をマルチオミックス single cell 解析を行い、治療標的に結びつく遺伝学的・免疫学的変化解明を目的とした国際共同研究を行う